

津波は英語でもTsunami

東日本大震災の地震は1000年に一度言われる大地震で、東北から関東にかけての東日本一帯に甚大な被害を及ぼしました

特に地震後に発生した津波の映像は驚きの連続でした。NHKはヘリコプターによるカメラで津波の様子をリアルタイムに全世界に発信していました。

想像を絶する大量の水が家と言う家を、町全体を飲み込み、全てが小舟のごとく流されていました。想像を絶する光景で、自然の持つ破壊力の強さにただただ驚くばかりでした。

一番高い所では、なんと43mということです。



「Tsunami」は、日本語が語源となって世界に広まった言葉の一つです。

BBCやCNNなんかを見てもすべて「Tsunami」です。地震では権威ある米地質調査所も、「Tsunami」を地震や地すべりなど突然の地殻変動によって引き起こされる波動と定義するとともに、「Tidal Wave」は誤った表記としています。

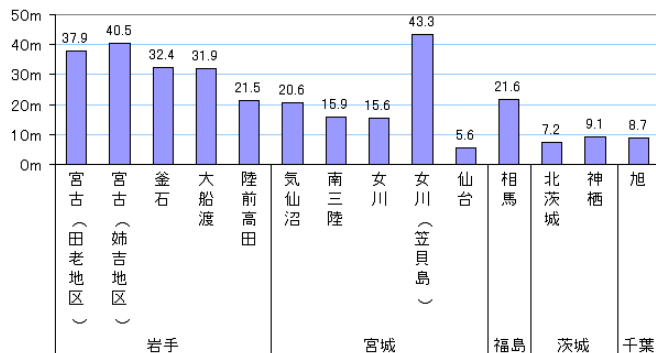
海外のウェブサイトも今回のアジア各地を襲った津波を「Tsunami」と記述しているものが多い。その見出しのいくつかを拾ってみると、

US to Provide Aid for Tsunami Victims(米国、津波犠牲者に援助の準備)(ABCnews)。

Tsunami toll jumps over 125,000(津波犠牲者12万5千人を超える)(Reuters)。

False Tsunami Alarm Sparks Panic in India(インドで偽津波警告流れる)(Guardian)などである。

東日本大震災で確認された津波の高さ(遡上高)



(注) 東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会調べ。ただし、宮古(田老地区)は都司准教授らの東京大地震研究所調査、宮古(姉吉地区)は「東北地方太平洋沖地震津波合同調査グループ」の調査、女川町(無人島・笠貝島)は東京大地震研究所の都司嘉宣准教授の調査による。

(資料) 東京新聞大図解「大津波」2011.7.3、毎日新聞2011.4.24、2011.7.16、河北新報2012.3.17

なお、「Tsunami」を最初に使ったのは小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)といわれ、1897年著したGleanings in Buddha-Fields(仏教選集)の中のA LIVING GOD(生ける神)の中にこれを使用している。その部分を紹介する。

”Tsunami!” shrieked the people; and then all shrieks and all sounds and all power to hear sounds were annihilated by a nameless shock heavier than any thunder,
(「津波だ!」と人々は悲鳴をあげた。それからすべての悲鳴、音、音を聞く力がどんな雷よりも言うに言われない激しいショックにかき消された) (<http://www.sacred-texts.com/bud/gbf/gbf02.html>, A Living God)

この小泉八雲の原作を参考して書かれたのが戦前小学校教科書に載った「稲むらの火」である。この作者は当時の和歌山県日高郡南部町南部小学校訓導であった中井常蔵氏である。稲むら(刈った稲を積み重ねたもの)に火をつけ津波を知らせ、村人を高台に避難させたという話で年配の方は誰でも知っている内容である。